

ならじよ  
奈良女子大学通信

# today

vol.  
34  
July  
2020

## 特集

いざゆかん温故知新の風が吹く  
～ベルギーからの便り～







加古 慈(かこ ちか)さん  
愛知県出身  
奈良女子大学家政学部卒(現:生活環境学部)  
1989年、女性総合職の1期生としてトヨタ自動車に入社、材料技術部に配属される。2001年より3年間材料エンジニアとしてベルギーにある欧州の技術開発拠点に駐在し、インテリアの商品力を向上する仕事に就き、感性工学を用いて独自に課題解決に取り組んだ。これをきっかけに2004年にレクサスブランド企画部に異動、製品企画を経て、最終的には同社が誇る高級車ブランド、レクサス「UX」のチーフエンジニアを務める。現在、材料技術領域において統括部長に就任。趣味は茶道、山登り。

## いざゆかん温故知新の風が吹く ~ベルギーからの便り~

感性工学を採用しようと思われたきっかけはどういったことでしょうか？

新たなクルマを企画、開発する際には様々な性能や機能に対して競合他社と比較の上で数値目標を立て、達成手法を考えて設計、試作し確認評価をするというのが基本的な進め方です。

当時「インテリアの商品力」についても同様に数値化していました。インパネ、シート、天井といった部品二つの商品力を競合他社と客観的に比較できるように素材の種類、装備の有無や収納容量といった項目に分解して、採点表にし、数百にもぼる項目に重みづけをした上で合計していました。

ところが、この方法で点数の高いインテリアが欧州人に必ずしも評価されていない、感覚と合わない結果が出てくる場合があるという問題提起がされていました。

採点表に欧州人の着眼点が不足しているというマーケティング部署の指摘もあり、ある具体的な項目を追加検討する担当に指名されましたが、採点項目を増やす前に、「そもそもお客様が何を良い悪いを判断しているのか」を調べたいと思いました。

対象物の印象を評価する方法を調査する中で、感性工学という分野があることを知り、シヨールムに見立てた空間で実際のクルマを使ったパネル評価を始めました。

なぜ、奈良女子大学を選ばれましたか？

衣食住に関連する食品化学に興味をもったのが奈良女を知ったきっかけです。両親は自宅から通える範囲の大学に行くことを望んでおり、進学で下宿することに対して大反対だったのですが、偶然、父の同世代の知人に奈良女出身の素敵の方がいらつしゃったお蔭で「奈良女だったら」ということで許してもらいました。女子大として素晴らしい歴史がありましたし、奈良という場所が暮らしやすさへの憧れと好奇心、そして多くの立派な先輩方がいらつしゃるところも魅力的でした。

奈良女で学んだことが今に生かされていますか？

家政学部被服学科で被服管理学(界面化学)を専攻しましたが、学生時代は被服を軸として他にも高分子物理学、生理学、防虫科学のような理系の分野に加え、意匠学、色彩学、文化人類学や服装史といった専門の先生方から学際的な環境下でご指導いただきました。そういった経験がもしかすると物事を多角的に捉える素地になつていたり、新しい分野に取り掛かると

きの心理的ハードルを低くする助けになっていたりするのも知れません。

もちろん界面化学自体も、自動車に用されている一般的な例として接着・接着、塗装などがあり、私が師事した田川美恵子先生の研究室の先輩は塗料開発に携わられていましたし、私自身も入社当初粘着フィルムを担当していました。

奈良女を卒業して就職先になぜトヨタ自動車を選ばれたのですか？

地元愛知県に戻って就職するという両親との約束があったこと、同じ学科の先輩方が数名就職されていることを聞いて親しみを持てたこと、そして好きな実験を続けられて「自動車メーカーでの技術開発」という未知の世界で一端を担えることに対する好奇心、この3点でしょうか。

チーフエンジニアとはどのような役割ですか？

チーフエンジニア(CE)とは担当するクルマについてどういってお客様にどんな価値を提供したいかというコンセプトを考えるとところから、企画、開発、生産準備、

お客様へ商品のご説明をするまでの長期間、CE付きと呼ばれる数人のスタッフと共に開発をリードし、全プロセスをマネージメントする開発責任者です。クルマづくりは、設計、性能開発、生産技術、製造、広報、営業といった様々な部門から集結した各専門領域の担当者総勢数百名が関わる大変大きなプロジェクトで、CEはそのオーケストラの指揮者に例えられることもあります。

CEは大抵クルマ開発の屋台骨となる大物ユニットの設計者や性能開発出身者になることが常ですから、材料技術出身の自分がCEになることは全く想像すらしていませんでした。

私も、もしベルギーに駐在していなかったらCEになることはなかったと思います。

ベルギーではどのようなお仕事をされてましたか？

駐在したベルギーでは材料のエンジニアとして技術調査、欧州生産車の材料や部品開発に携わる現地メンバーのサポートがメイン業務でした。

その頃、「インテリアの商品力向上」

というテーマで、材料という枠を超えた視点で仕事をするチャンスを与えられました。欧州人がインテリアに何を求めているかを分析し、それを具現化するための組織の在り方を提案しました。残念ながらそれについては却下されましたが(笑)、組織がだめならと欧州でも生産している「avis」という小型車を何をするべきかの具体策を組織横断チームを作って提案しました。

そういった仕事を通じてそれまで関わることのなかったマーケティングや性能開発、そして後に異動することになった製品企画といった「クルマ開発」のメンバーと一緒にチームで仕事をする醍醐味を味わい、結果的にCEに対して提案をする初めての接点を作ることも出来ました。

インテリアの商品力を競合他社と比較

目次

- 02 **特集** いざゆかん温故知新の風が吹く  
~ベルギーからの便り~
- 06 Introduction to Doctoral Studies
- 08 Introduction to Master's Studies
- 10 ならじょOGに聞きたい! どんなお仕事してますか?
- 12 都道府県別入学者数・奈良女子大学の就職支援
- 13 Club / Circle # NWU
- 14 佐保会各支部ルーベリ・創立百十周年記念事業を終えて
- 15 Campus Topics
- 16 あの頃の奈良女へタイムスリップ!!  
= 本学自慢の名物教授 第4回 千田稔編 =





顔合わせをしたのですが、私は緊張のあまり名刺交換もせずにいきなりプレゼンテーションを始めてしまったほどです。その様子に彼女も驚いたそうですが、ようやく落ち着いて話していくうちに共感できる点がたくさんあることがわかり、その日のうちに意気投合しました。

彼女は今もトヨタのベルギーにある、当時私がいた拠点で感性の分野をリードしていて、未だに良き先輩であり友人としてずっとお付き合いが続いています。

今までの経験から、これから必要になることはどのようなことだと思われませんか？

「一言で申し上げると、「多様性」だと思います。フランスでは当時からダブルディグ

リリーといい、異なる分野の学問を学び、2つの学位を取得する学生が普通にいたようです。

先程のデザイナー、キャロルの記事の中にも「デザインと材料両方の勉強をした人材がいることで、新しい意匠表現が可能になる」とあり、当時もなるほど思いました。

昨年、早稲田大学大学院の入山章栄先生のご講演を聴く機会がありました。ご存知の方も多いかも知れませんが、経営学の先生です。これからは「イントラパーソナルタイパーシティ」つまり、「二人の中に幅広い多様性を持つ」ことによって、世の中の急速な変化への対応ができ、新しい価値を生み出せる可能性が高くなるといふことをおっしゃっていました。



世の中のあらゆる企業が、イノベーションを求めてアライアンスを組んで仲間づくりをしているのも、異質なものを得意分野を組み合わせて新しい価値を創出することを企業単位で狙っているからですね。

今後挑戦されたいお仕事について教えてください。

優れた技術と技術、人と人、ハードとソフトを結び付けて社会のお役にたてるモノづくり、コトづくりをしていくことが求められる中で、自分が出発点を探しているところなんです。自分が上司に様々な場面でチャンスを与えてもらい、「一緒に働く仲間」に助けられた感謝の気持ちを、今度は自分が誰かの背中を押し、サポートすることでまずはご恩返ししたいと思っています。

学生記者の声



今回の取材では奈良の地で、どのように加古様の感性が育まれたかについて貴重なお話を伺うことができました。同じ学び舎で過ごせることを誇りに思うとともに、大学、人生の先輩からの教えとして今後の指針の糧にしていきたいと思っております。

中根 明日香(なかね あすか)  
人間文化総合科学研究科博士前期課程  
数物科学専攻1回生  
出身校:四天王寺高等学校(大阪府)

後輩に向けてエールをお願いします。

皆さんには無限の可能性が 있습니다。自分の限界を自分で決めず、何事もおおらかにチャレンジしていただけたらと思います。

私も「将来海外で仕事をしてみたい」と学生時代にぼんやりと考えていたことや、「内装のトータルコーディネーターのような仕事をした」という20代の頃の希望もCEになるという形で叶いました。

志を持って努力していると目の前のチャンスに気付くことが出来ますし、ゴールを共感できる助けてくれる上司や仲間が現れます。今すぐ明確な将来像を持つことは難しいかも知れませんが、自分のやりたいことを探して常に持っていることで、そこに近づくための道がみえるはずですよ。



た。調べた文献の中で最も参考にさせていただいた論文のひとつが奈良女の先輩、西藤栄子先生の書かれたものであったことにも大変勇気づけられました。

感性工学を用いて気づかれたことは何かありますか？

当時の評価結果では、日本人はコンソールボックスやラゲージルームに代表されるような物入れの容量や使い勝手、「電動式〇〇」といったような機能に注目する一方で、欧州人はインテリア全体を見た

きの「仕立ての良さ」や「まとまりの良さ」を、素材感の連続性やデザインモチーフなどの一貫性といったことで判断する傾向が強い、という大きな違いがあることがわかりました。

素材感、素材そのものもつ風合い、プラスチックであっても色や艶、シボ、と呼ばれる表面の細かい凹凸で表現されますが、欧州人の中にはその個々の良さ、癖しはもちろんのこと、隣り合う部品のコントラストの度合いとか面積比というようなことに対する審美眼を持つ人も少なからずいて、加飾や素材の種類が多過ぎることを嫌う傾向があることも分かりました。

また、昨今では普通に合わせる気遣いをしていきますが、スイッチ、メーター、ナビゲーションシステムの表示のフォントの種類がわずかも違っていることが苦にならない、当時は随分指摘されました。

なぜそのような違いが生まれるのだと思いますか？

欧州と日本の街並みの違いを思い浮かべてみて下さい。日本でも外観がコント

ロールされている地域はありますが、ベルギー駐在中に、古びて風合いの良くなったレンガの壁一枚を残して3階建ての建物を解体している現場を見たことがありません。地震がないこともあってか、そもそも建物を解体して「から作り直す」よりはリノベーションが一般的で年代を経た味のある内壁に合わせて、インテリアを自らコーディネートすることを日常的に楽しんでいる人が多く、そういった中で審美眼が養われているのかも知れないと当時思いました。

先程のフォントの話に戻りますと、日本では漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベットというように多様な文字が二行に混在していることに慣れ親しみ、許容して日々生活しています。一方で欧州では基本的にアルファベットだけを目にしているの、フォントの微妙な違いにとっても敏感なのだと感じました。

現在は日本でもフォントのもつイメージが重要視されていますし、古民家の良さが見直され、リノベーションを楽しむ人も増えてきています。感性は経験によって変化していくというのも私にとって発見でした。

ベルギー駐在中、これは忘れられないと思ふような交流の思い出はありますか？

欧州人の感性に合うとはどういうことか。インテリアを基本的な形を変えずに仕立て直すことで欧州人の感性を表現し、日本の皆さんに見てもらおうというプロジェクトを任せられました。そのために現地で社外のデザイナーを探すように言われました。



私にはそのようなネットワークもなく、瞬途方に暮れましたが、ふとある仏自動車メーカーのインテリアデザイナー(当時ディレクターという肩書でした)の記事を思い出しました。内容に感銘を受け、「いつかこういう人と仕事をしてみたい」とスクラップしていた1年前の記事を持って、同じメーカー出身の役員オフィスを訪れました。もちろん、ダメもとで。

「この方ご存知ないですか？」

「ああ彼女なら昨日このオフィスに来てたよ」

「昨日ここに？」

鳥肌が立ちました。偶然そのデザイナーが仏メーカーから次のキャリアの候補のひとつとしてトヨタへの移籍を考えていたタイミングだったのです。

その後、ご本人を自分で口説いて来るように言われ、ひとりパリに向かいました。凱旋門の少し北にあるホテルのラウンジ



## 進化する奈良女～博士後期課程改組～

大学院へ  
ようこそ!



人間文化総合科学研究科  
研究科長  
(文学部 人文社会学科 教授)

高田 将志

たかだ まさし

**Q** 令和二年大学院改組の特色と目的について教えてください。

まず大きく変わったのは、大学院の名称です。本学大学院は、設立当初から「人間文化研究科」という名称でしたが、今回の組織変更に伴い「人間文化総合科学研究科」とし、新たに「総合科学」という言葉を付け加えました。というのも、本学大学院の博士後期課程は、設立当初は人文科学系が主流でしたが、現在は理学系・自然科学系の分野も拡充・整備されているからです。それを名称に反映させることで、企業などの外部にも「理系・自然科学系も研究している」ということを見えやすくすることが、名称変更の一つの目的です。

本学大学院は「融合複合的な研究」を重視して、当初は一つの組織に様々な研究者が集まるというスタイルを取って設立されました。現在も、組織規模の拡大に伴ってその伝統を引き継いだ講座名がついています。しかし、学部生や博士前期課程の学生にとっては、どんな学問分野なのか見えにくい部分がありました。それを整理し、見えやすくしようというのが、今回の改組の特徴です。つまり、学部と博士前期課程で使

人間文化研究科 (2020年3月まで)



人間文化総合科学研究科 (2020年4月から)



われている分野の名称を、博士後期課程でも引き継いだわけです。これにより、学生が学部時代から研鑽を積んできた基礎学問の深化が見込まれます。それと同時に、本学大学院の強みである「融合・複合的な研究」ができる環境を担保するため、様々な研究分野をつなぐ

「複合系履修系列プログラム」を新たに設けました。このプログラムは現在「共生科学複合系プログラム」「古代学・聖地学複合系プログラム」「ジェンダー文化学複合系プログラム」の三つですが、今後教員や学生のニーズに合わせて増える可能性もあります。

**Q** 改組前後の博士後期課程の講座の相違点はどこでしょうか。

改組前は、例えば生活環境学部の教員と理学部の教員あるいは文学部の教員と生活環境学部の教員、というように学部横断的に講座が作られていました。それによって融合・複合的な研究を実現してきましたが、中には離れた分野もあり、教員同士でのやりとりにくさの声もありました。改組後は、基本的に構成する教員が学部・博士前期課程と同一になるため、専攻のまとまりがより緊密になると予想されます。つまり、その分野を担当する教員が学部からほとんど共通しており、学内からの進学であれば、学部時代から知っている教員が博士後期課程まで担当するというケースが非常に多くなるのです。

しかし研究というのは、先端的になるほど周辺領域への知識と型にはまらない新しい視点発見が重要になってきますから、分野を横断した広い視野も求められます。そのため、改組後の博士後期課程の組織も、「複合系履修系列プログラム」

などを設け、幅広く分野横断的な特長を残しています。

**Q** 本学大学院博士課程は、女性リーダーの育成においてどのような点が強みと言えるでしょうか。

大学院博士課程を経て世の中に進出する女性の割合は未だ男性と比べて低いのが現状ですが、現代社会では、女性社員の割合の具体的な数値目標が掲げられるなど、女性の社会進出の需要が高まっています。

本学では、平成22～27年度に全国の国立大・理学系・自然科学系4分野(数学、物理学、化学、生物学)の博士前期課程を修了した女性のうち、およそ12%を輩出しています(学校基本調査のデータより)。本学は、このように女性が少ない研究分野をリードしてきた実績があります。女性の修了者が男性と比べて少ないのが現状である以上、外形的な仕組みとしての女子大の価値は大いに考えています。

また、本学は若手女性研究者の支援も充実しており、子供が生まれた方も安心して研究に専念できるような子育て支援システムが行き届いています。女子大として、女性に起こるであろう様々なライフイベントを丁寧にサポートしようという意識が強く、そういった面での女性の「学びやすさ」は大きな強みであると思います。

**Q** これから社会に羽ばたいていく学生にとって大学院博士後期課程での学びの価値は何だと思われますか。

学部や博士前期課程と比べて博士後期課程でより顕著になるのが、自分で計画・実行し、何かを明らかにすることが学生に求められる、と

いうことです。研究というのは、とにかく「自分で動く」ことが重要で、それは社会に出てからも同じです。少なくとも、博士後期課程の学位を持つということは、「自分が何を、どう行動するべきか」を能動的に実行できる人である」と社会から認識されるということになります。

本学博士後期課程にはこの力を磨ける講座が揃っており、学生が能動的に様々な分野を学べるよう、「複合系履修系列プログラム」を修了する必要単位の中に組み込んでいます。また、本学は学位取得の審査体制が厳格であり、容易に学位が取れるというわけではありませんが、ですから、本学で博士後期課程の学位を取るといことは、社会に出てからも一つの信頼と心得ます。つまり、「自立した人間である」ことを社会に保証することになるのです。

目的に向かって自分で考え、動くことが意識的にできるようになるというのが、本学の大学院博士後期課程での学びの価値であると言えます。

**Q** 最後に、大学院博士後期課程を目指す学生にメッセージをお願いします。

大学院博士後期課程を修了すると就職がしにくいとよく言われますが、必ずしもそうとは限りません。特に理系・自然科学系に関しては、企業の研究職に引く手数多です。人文科学系の方の状況は少し違いますが、中学・高等学校の教員を博士後期課程修了後の進路の一つとしてぜひ考えていただきたいと思っています。中学・高校の教員を経て、大学の研究職に就かれた方も多数いらっしゃいます。また、色々なことに興味を持ち研究成果を出された方であれば、時に民間企業から声がかかるなど、最近ではアカデ

ミックな研究者だけでなく、様々な業種へ就職の選択肢は広がっています。

研究はとても楽しく充実したものです。特に大学院博士後期課程になると、研究の幅、つまり自由度が上がり、自分のやりたいこと・自分の考えを実現しやすくなります。研究が好きなら方には、まだまだ環境だと思えます。もちろん、博士後期課程に進学するには、やはり経済的な問題も付きまといまいます。しかし現在は経済面でのサポートも少しずつ広がってきていますし、中には非常勤講師をしながら研究をされている方などいろいろあります。

研究に少しでも興味がある学生の皆さんにはぜひ大学院博士後期課程への進学を検討してほしいと切に願っています。

### 学生記者の声



お話から研究することの面白さが伝わってきて、大変刺激になりました。特に複合系履修系列プログラムは、様々な分野に興味分散する私にとっても興味深かったです。皆さんにも、博士後期課程の魅力を感じ取っていただきたいです。

佐藤 さくら(さとう さくら)  
文学部言語文化学科4回生  
出身校:宇都宮中央女子高等学校(栃木県)



大学院へ  
ようこそ!

# Introduction to Master's Studies

## 化学生物環境学専攻 生物科学コース



理学部  
化学生物環境学科  
生物科学コース  
准教授  
**片野 泉**  
かたの いずみ

**Q** カリキュラムについて教えてください  
私が所属している生物科学コースは、分子や細胞といったミクロな世界の研究、ミクロとマクロの中間に位置する個体についての研究、及び生態学というマクロな世界の研究と三つの分野に分かれています。それぞれの分野に、生物に対して様々なスケール感で研究を行っている先生方が揃っており、これは本学の生物科学コースの一つの特徴でもあります。ミクロかマクロのどちらか一方に研究対象が偏ってしまう大学も多い中、生物に対してこのように広いスケール感で研究に取り組むことができる大学院の修士課程は全国的に見ても珍しいと思います。

そのため、自分の専門以外の分野についての授業も履修することが可能なカリキュラムになっており、最終的には専門的に取り組む分野を決定して、特定の分野についての研究を行います。自身の視野を広げるために他の分野の授業を受講することができます。勉強や研究の過程で、様々な視野を持つ先生方に相談できることは本コースの良いところだと思います。

このように、本学の生物科学コースは、生物を様々な切り口から捉えることにより、生物の本来の姿を解き明かすことを目的としたコースになっています。

**Q** 生物科学コースの特色または魅力は何だと思われませんか  
特色魅力として、一点目は少数精鋭であることです。大学院の学生の人数に対して先生の人数が多いため、行き届いた教育を受けることができます。生物学は実験や分析、調査も多いですが、それぞれの場面で一人ひとり

によってダム湖という新しい環境が河川の中に創出されると、河川にはいなかったプランクトンが発生し、河川生物の食生活は大きく変化します。食う食われる関係は生態系の根幹をなす重要な生物間相互作用であり、物質の流れも大きく変わります。ダム湖川では様々な環境緩和策がとられています。本流と支流の接続やダム湖周辺地域、河畔林など、ダム湖川に存在する様々なエコトピアの役割の解明なしでは、効果的な緩和策にはならないと考えています。

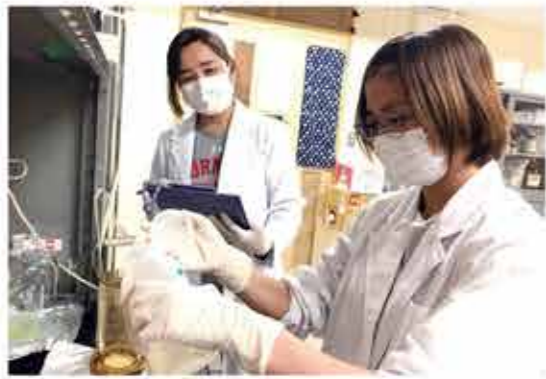
他にも、近年急速に発展しつつある環境DNAを実際の野外調査に適用可能にするための研究や、里地里山における放棄水田など、ポテンシャルは高いが消失しやすい小さな湿地域における保全的研究も進めています。このように私の研究室では、応用的な側面を意識しながら基礎的な研究を進めています。

**Q** どのような学生に進学してもらいたいと思いますか  
自分が学んだり研究したりする対象(生物)はもちろん、広くその周辺の分野に関心を持って進んでいる学生に進学してもらいたいと思います。例えば生物が生息している環境や、自然科学全般、自然を取り巻く人間社会などへの視点を忘れず、広く学ぼうとする学生に進学してほしいと思います。

大学院での学びは、知識や経験のインプットであり創造であると思います。本学は純粋に学問に没頭できる環境であるため、存分にインプットは可能です。しかし、私もそうでしたが、在学中はインプットだけで満足

り、年齢を問わず最前線で成果を残されているので、本学の凄みのようなものを感じる機会が多いです。全国にそれだけの数の先輩や仲間がいるということは、特に社会に出て以降はとても心強いことだと思えます。女性は様々なライフイベントによって、仕事や専門とする分野を離れざるを得ない時もありますが、本学でのエッセンシャルな学びや、ロールモデルとなる様々な先輩の存在が、たとえライフイベントによる中断があったとしても再び社会に復帰して活躍できる女性を世に送り出すことに繋がっているのだと思います。このように、本学は女性の高等教育に対してよく貢献している大学であると言えます。

**Q** 片野先生の具体的な研究例をお聞かせください  
私は主に、近畿圏の河川やため池、ダ



実験室での分析風景

ム湖や湿地など「人の手が少し入った」淡水域を研究対象にしています。複数の生態系、例えば陸域と水域などが接する場所であるエコトピアは、生物だけでなく様々な物質が行き来する場所であり、生物多様性維持のために重要な場となっているため、近年では特に着目されています。淡水域は生物多様性の低下が最も著しい生態系であり、将来に向けて生物多様性を維持するためには、環境と生物との相互作用、生物と生物との相互作用といった基礎的な研究はもちろんのこと、人間の淡水域への関わり方という応用的な側面からも研究を進める必要があります。そのため、生物学や生態学といった理学的なアプローチに加えて、理学の境界領域である工学や社会学のアプローチも合わせて行なっています。学生と一緒にフィールドに出て、様々な環境因子の測定を行ったり、主に水生昆虫を対象としています。時には魚類やプランクトンなど様々な生物を採集するなど、野外調査を頻繁に行なっています。野外調査は女子学生には体力的に大変な側面もあるかもしれませんが、フィールドでは笑顔も多く、皆楽しそうに調査しています。フィールドで採集してきた生物は、餌や環境を変化させた場合の反応(例えば成長や行動の変化など)を調べるため、飼育実験を行うこともあります。

ここ10数年は、ダムによる河川生態系への影響と、様々な影響緩和策についての研究を行ってきました。日本の河川はほとんどにダムは存在しますが、ダムは人間社会にとってなくてはならない存在ですが、高い連続性や変動性といった本来の河川生態系の特徴を大きく変えてしまっています。例えば、ダム



川での生物採集

に合わせたきめ細かな指導がなされています。本学の生物科学コースは先生一人に対して修士課程の学生が一学年で多くても三人程度です。学生はもちろん先生の研究においても、新しい発見があった時、その喜びを先生と学生の間でリアルタイムで共有することができる場所は魅力です。

二点目は、意外と知られていないことですが、日本全国の大学院修士課程を修了する女子学生のうち、一割以上が本学の学生であるということです。本学は少数精鋭の教育体制でありながら毎年コンスタントに多くの修士課程の女子学生を輩出しています。レベルの高いきめ細かな教育を受けることができるため、毎年多くの学生が集まっています。特に私の分野では、活躍している女性研究者のほとんどが本学出身者であり、アウトプットについては気持ちが行かない学生が多い気がしています。学んだことをどう生かしていくのか、将来の環境や社会のため、自分はどうなことができる人間になりたいのか、在学中から心に留めておくことで、さらに大学院での学びは深まると考えています。

自分の限界を決めずに新たな挑戦を続け、自分の殻を破ることのできる弾けた学生がもっと大学院に増えてほしいと思っています。

### 学生記者の声



学びを自分の中に留めておくのではなく、社会に対してアウトプットしていくことは、大学院生だけではなく学部生にとっても大切なことだと思います。私も大学での学びをアウトプットしていくことのできる学生を目指したいと思いました。

山本 萌(やまもと めぐみ)  
文学部人間科学科4年生  
出身校:聖心学園中等教育学校(奈良県)



## ならじょOGに聞きたい! どんなお仕事していますか?

### 翁 みほり (おきな みほり)

勤務先: 奈良国立博物館ボランティア室アソシエイトフェロー (教育普及担当)  
人間文化研究科博士前期課程国際社会文化学専攻 2015年3月修了  
出身校: 四天王寺高等学校

#### Q1 いまどのようなお仕事をされていますか

奈良国立博物館のボランティア室という部署で、教育普及担当のアソシエイトフェローとして働いています。奈良国立博物館には150名を超えるボランティアさんが所属していて、ボランティアさんの活動内容を考えたり、運営したりするのが主な仕事です。また、奈良国立博物館は仏教美術を専門に展示する博物館なのですが、一見難しそうとイメージされがちな仏教美術をわかりやすくお客様に伝え広めるのも大事な業務の一つです。最近では、子どもでも楽しめるようにと、特別展などでジュニアガイドやワークシートを作成するなど、色々と工夫を凝らすように努めています。



#### Q2 このお仕事を選ばれた理由、きっかけは何ですか

学部3年生から、古代文化学コースの美術史ゼミを専攻し、いつかは自身の専攻と関わる博物館や美術館で働けたらいいなと考えていました。ただお恥ずかしいことに、作品の研究は好きでも、得意ではなかったんです。こんな私でも役に立てるような博物館や美術館での職種はないかな、と模索していました。

するとそんな時、私が大学院の博士前期課程に進学した年から、学芸員の資格を取得するための必修科目が増え、その一つとして「博物館教育論」の講義が新たに加わることとなりました。運良く、私はその講義のティーチング・アシスタントをさせて頂くこととなり、それをきっかけに、博物館や美術館の魅力を広く発信していく「博物館教育」の分野に興味を抱くようになりました。

#### Q3 これまでのご経験のなかで、特に印象に残っているお仕事があれば教えてください

2019年の夏に当館で開催した、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」の展覧会ですね。親子向けの展覧会ということで、初めて企画の段階から関わらせてもらいました。今まで仏教美術にあまり親しんだことのない人達にもめいっぱい楽しんでほしい! と展覧会の担当者として色々と構想を練るのがとても楽しく、やりがいを感じました。展示室の中に、私が描いたキャラクターをナビゲート役として登場させてもらったのも良い思い出ですね。そして何よりも、多くの来場者に笑顔で帰ってもらえたのがとてもうれしく、印象に残っています。

#### Q4 奈良女子大学ではどのような学生生活を送られていましたか

学部時代は、クラブ活動に力を注いでいました。ギター・マンドリンクラブに所属していて、クラシックギターの練習を大学でも家でもしていました。クラブ活動に生活の力点を置いてしまっていたので、もっと学部時代に勉強しておくべきだったな、と今でも反省しています(笑)。ただ、休みの日には、博物館・美術館巡りをするのが日課になっていましたね。美術史ゼミの恩師より、「美術史を専攻する上で何よりも大切なのは、様々な展覧会や寺社仏閣に足を運び、多くの作品を観て感じる」と教えていただき、その一言が今の私を形作っていると言っても過言ではありません。



デザインしたキャラクター

#### Q5 翁さんが思う、奈良女の魅力は何ですか

やはり、豊富な文化財に囲まれた環境が奈良女の魅力だと思っています。少し足を運べば、文化財を間近に観て、感じることができる。こんな素晴らしい環境は、他には中々ないと思います。上記の恩師のお言葉もあり、私はよく空き時間を利用して、博物館や美術館、そして寺社仏閣などを訪れるようにしていました。文化財や歴史をいつでも好きなだけ身近に感じることができるという環境が、文化財や歴史への興味を深めるきっかけになったと感じています。現役の学生さんにも、ぜひ、空き時間や休みの時間を活用して、奈良の歴史の奥深さに触れてほしいと思います。



奈良国立博物館 なら仏像館

## ならじょOGに聞きたい! どんなお仕事していますか?

### 奥村 綾子 (おくむら あやこ)

勤務先: パナソニック株式会社 アプライアンス社 キッチン空間事業部 製品審査課  
人間文化研究科博士前期課程生物科学専攻2017年3月修了  
出身校: 奈良県立奈良高等学校

私は、パナソニックで冷蔵庫の審査を担当しています。世の中に出る前の新製品を実際に使用し、本当に安全で使いやすく、お客様が満足できる仕上がりになっているかを確認しています。自分の気づいたことによって、製品が良くなることを実感できる仕事です。時代に合った新製品を作るときに、使い勝手への心遣いや、安全に使える工夫、誤使用防止への配慮を行うことで、お客様の「より豊かな暮らし」「当たり前の安全」に携われることが、仕事のやりがいです。

一見すると、学生時代に専攻していた生物学と関連の無い仕事に見えるかもしれませんが、植物・菌の繁殖・細胞の知識等が役に立っています。また、大学で研究中学んだ統計の知識やバラツキの概念は、ものづくりの品質を把握する上で、非常に大切です。新しいことを自ら勉強し、次に検証するべき所を見つけ出すといった研究のプロセスも、仕事に通じるところがあります。

私のように、意外な所で学んだことが役立つ! ということは、後にならないとわかりません。私も学生時代は、生物の研究だけに限らず、サイエンスオープンラボ・教職・留学・サークル活動など、興味があることに取り組みました。学生のみならず、前向きに色々なことにトライして経験を積み、多くの方と出会って視野を広げ、学生生活を楽しんでください! その体験が、社会人になった皆さんを必ず助けてくれます。



製品審査の様子



アプライアンス社 草津工場



ショールーム

### 野田 小百合 (のだ さゆり)

勤務先: DMG森精機株式会社 NC・制御盤購買部 NC・制御盤購買グループ  
生活環境学部心身健康学科スポーツ健康科学コース2019年3月卒業  
出身校: 奈良県立奈良高等学校

私は昨年、DMG森精機株式会社に入社しました。DMG森精機では金属を削る機械である「工作機械」を製造し、金型や産業部品の生産を支えています。きっかけは奈良女の県内工場見学ツアーに参加したことで、新しいことに挑戦し続ける社風に魅力を感じ、入社を決めました。現在は購買部に所属し、機械の製造に必要な部品の発注や納期管理を行っています。納期が遅れそうな時に購入先への前倒し依頼や社内での工程調整などを自ら行い、無事組立工程に間に合うよう納入された時は、非常にやりがいを感じます。

この「自ら動く」ことの大切さは、在学中に奈良女陸上部の認知度をあげようと様々な活動を行った経験から学びました。社会で必要な力や経験を奈良女で学べて良かったです。奈良女には多くの魅力がありますが、一番の魅力は「先生との距離の近さ」だと思います。例えばスポーツ健康科学コースでは、秋の運動会やスキー実習、地域事業への参加など、先生と一緒に活動できる機会がたくさんあります。授業やイベントを通じて先生と生徒がお互いのことをよく知れるので、勉強だけでなく就活や部活動などプライベートな相談にも乗って頂きました。

今後、仕事においては「価格交渉」ができるようになることが目標です。購買部は製品の原価、ひいては会社の利益に大きな影響を及ぼす部署の一つです。自社製品や担当部品への理解を深めて「価格交渉」を行い、会社の利益に貢献できたらいいですね!

奈良女での学びと社会での新たな学びを生かし、自らの力で会社や社会に貢献できる人材になれるよう頑張っていこうと思います。



2017年近畿地区国立大学体育大会での陸上部集合写真



スポーツ健康科学主催の運動会の様子。真ん中で立ちすくんでいるのが私



DMG森精機株式会社伊賀工場



# Club/Circle # NWU

学生記者  
 山本 萌(やまもと めぐみ) 佐藤 さくら(さとう さくら)  
 文学部人間科学科4年生 文学部言語文化学科4年生  
 出身校:聖心学園中等教育学校(奈良県) 出身校:手塚宮中央女子高等学校(栃木県)



#ファッション #ショーを作り上げる達成感 #仲間

## Nara Colle (公認) メンバー数:37人

活動内容:モデル・ヘアメイク・クリエイター・裏方が協力して、学内で年間三つのファッションショーを実施。  
 ◎Nara Colleさんから見えたファッションの魅力は何ですか? 一番は自分らしさを追求することができる場所にあると思います。一人ひとり「かわいい」と思うものは異なり、それを自由に表現できる場所です。  
 ◎活動の中で達成感を感じる瞬間を教えてください 衣装を完成させることに達成感を感じます。また、モデルが着用することによって衣装が舞台上で一層輝きを増すため、ショーを作り上げることに更なる楽しさがあります。  
 ◎Nara Colleでしかできない経験は何ですか? 自分とは異なる感性に間近で触れることができ、そこから沢山の刺激を受けます。

♡お気に入り



#学園祭 #来年で70回目 #成長

## 恋都祭実行委員会 (公認) メンバー数:38人

活動内容:2021年度で70回目を迎える歴史ある恋都祭(学園祭)の運営に携わる。  
 ◎活動においてやりがいを感じる瞬間を教えてください お客さんや参加している学生が楽しそうに過ごしている姿を見ると、これまで活動してきた成果を感じます。恋都祭が成功したときの達成感や、活動を通して自分が成長できたと感じる瞬間がやりがいです。  
 ◎恋都祭における恋都祭実行委員会の役割について教えてください 部活動やサークルなどの各種団体のステージ発表や出店をサポートする役割と、私たちが毎年決めている恋都祭のテーマに沿った企画を実施して恋都祭を盛り上げる役割があります。  
 ◎恋都祭のおすすめの楽しみ方を教えてください 恋都祭が開催される時期は中庭の樹木の紅葉から秋の訪れを感じます。その素敵な雰囲気の中でゆっくりと展示やステージを見ながら、活気に溢れる奈良女子大学を楽しんでもらえたらと思います。

♡お気に入り



#絵が好き仲間 #新しいことに挑戦 #きたまち展示は8月から

## 美術部 (公認) メンバー数:13人

活動内容:学園祭やきたまち案内所での作品展示。週2回放課後に自由参加で個人作製活動、週1回昼休みに部会を実施。  
 ◎最近の一番のニュースは何ですか? 学園祭の第8回N-1グランプリ(※)で優勝したことです! 展示数を増やし、展示方法の工夫をしました。また、見るだけでなく、参加型のイベント(塗り絵)でも楽しんでもらえたと感じています。 [※N-1グランプリ:学園祭で最も活躍した店・展示に贈られる賞]  
 ◎一番楽しいと思う活動は何ですか? 学園祭の準備を含めた活動です。部員全員の合作や学年ごとの合作を、夏休み前から皆で準備しています。去年は初めてポストカードやシール、アクセサリの販売をしました。  
 ◎奈良女の美術部といえばコレ! というものは? 学園祭で展示する部員全員の合作です。作品自体も大きく、カラフルで個性もありながら、全体としては統一感のある展示の目玉です。ぜひ展示を見に来てください!

♡お気に入り



#アカペラならではのハーモニー #洋楽やデュエット曲にも挑戦したい #ボーイパできる人募集中!

## Black Pepper Beats (非公認) メンバー数:7人

活動内容:アカペラサークル。週2回、音楽棟にて放課後練習を実施。主にJ-popの楽曲を新歓や学園祭のステージで披露するほか、隔月でcafe R+にてライブを行っている。  
 ◎サークル名の由来を教えてください サークルを立ち上げた個性豊かな3人の先輩の「黒コショウのようにピリリと辛いような、それぞれの個性を大切に音楽を奏でたい」という思いからこの名前が付けました。  
 ◎一番楽しいと思う瞬間は? ハーモニーが出来上がる時、みんなの声がびたりとはまる瞬間が一番楽しいです。個人練習が思うようにいかないときも、この瞬間を思い出して頑張れます。  
 ◎一押しのイベントは? 学園祭のステージパフォーマンスと、cafe R+でのクリスマスライブです。後者はクイズやビンゴゲームを盛り込んで、小さなお子さんも含めてお客さん全員が楽しんでもらえる企画をしています。

♡お気に入り

## 学部入試(一般入試(前/後)、推薦/AO入試)都道府県別入学者数(H28~H31年度)



日本全国に広がる奈良女のネットワーク!  
 地域色豊かな友人と  
 楽しい大学生活を送りませんか?

## 奈良女子大学の就職支援

就活は3回生の冬から本格スタートとなりますが、インターンシップ・各種セミナーへの参加など、3回生の春からしっかりと準備していく必要があります。奈良女子大学では就職活動の支援を目的に、主に以下のサポートを行っています。他にも学生個々人の状況に合わせて、柔軟にサポートをしています。

- 進路で迷った! → 1対1の個別相談を予約しよう!
- もっと色々知りたい! → セミナーに参加しよう!
- 情報を集めたい! → キャリアサポートルームを利用しよう!



個別相談

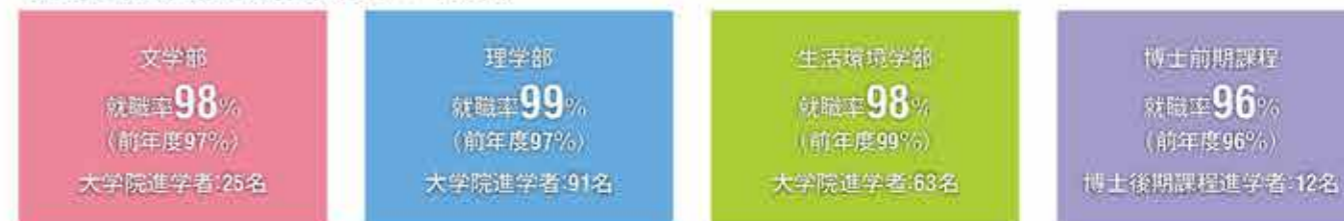


セミナー



サポートルーム

## 令和元年度の実績(詳しくはQRコードより)



## 主な就職先

西日本電信電話(株) ダイキン工業(株) (一財)日本食品分析センター (株)日立製作所 三菱電機(株)  
 (株)ワコール (株)デンソー 富士電機(株) (株)シティコム トヨタ自動車(株) パナソニック(株)  
 (株)オリエンタルランド 楽天(株) 三菱重工業(株) 住友電気工業(株) (株)ポーラ ピアス(株) 旭化成(株)  
 キヤノン(株) (株)リクルートホールディングス 富士通(株) 清水建設(株) (株)キーエンス (株)島津製作所  
 (株)南都銀行 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会 気象庁 航空自衛隊 奈良県 奈良市 東京都







## 佐保会 各支部リレー便り 全国47都道府県で活動

### ■愛知支部



（1986年家政学部  
被服学科卒業、  
1988年家政学研究  
科被服学専攻修了）  
川本美佐子

愛知支部では毎年6月下旬から7月上旬に卒業後10、20、30、40年の会員が中心となって総会、講演会、懇親会を開催しています。総会では、2016年に早瀬和恵氏（昭和24理物化）による講演「国立奈良女子大学誕生の経緯」、2017年に学長今岡春樹先生から「大学は激動期」の講演をしていただき、母校を取り巻く歴史と時代の流れを実感しました。また、2018年には、柳田紀美子氏（昭和62文教体）の講演とインド舞踊鑑賞会、2019年には、藤野千代氏（昭和62理物、平成10物博）「天平模様のデザイン」講演等、卒業生の多岐にわたる活躍と才能に感嘆しました。懇親会では出席への敷居が高かったけれども同じ学び舎で過ごした同窓生とは初対面でも楽しいひと時を過ごせ、世代の違う方とお話ができて楽しかったです。嬉しい感想を寄せていただいています。

「秋の特別行事」として、美術館や名所旧跡巡りと昼食会を開催しています。有松絞り体験と旧街道の散策、徳川美術館での間香体験、名古屋城本丸御殿ポランティアガイドツアーなど団体ならではの体験も豊富です。また、2017年からは「さえずりクラブ」と称して会員間の親睦と研鑽を深めることを目的に小さな会合を開いています。これまでに、富田信子氏（昭和32文英）「絵本の読みかせ」

ストーリーテリングをめぐって、西本ふたは氏（昭和61理生、昭和63理研生）「ふたばさん川虫つなあに？」、中井清美氏（平成3年生経）「植物からの贈り物アロマテラピーとは？ルームスプレー作り体験」、古澤真奈美氏（昭和57家食）「インドネシア国立高校での6ヶ月」、小寺陽子氏（昭和45文英）「大和絵初心者講習会」など愛知支部会員による講演と体験会です。いずれの回も、講演というよりは、写真や映像を見たり、標本や衣服などを手に取りながら、座談会に近い形態で少人数ならではの、学びの機会を得ています。交通の便がよく、映像の再生ができ時間を気にせず利用できるため、カラオケボックスで開催したりしています。

「秋の特別行事」「さえずりクラブ」には他支部会員も参加いただけます。詳細は愛知支部ホームページで紹介しておりますので、是非ご覧ください。  
<http://saioaichi.ciao.jp/>



徳川美術館での間香体験



ルームスプレー作り



理事、副学長  
藤原素子

本学は令和元年5月1日に創立百十周年を迎え、記念すべき節目に様々な事業を行いました。令和元年5月18日には、記念式典、記念講演会、祝賀会を挙行了しました。本学講堂での記念式典では、学長式辞後、来賓の方々よりご祝辞を頂戴し、本学能楽部に舞を披露してもらいました。また開式前後にも、箏曲部と音楽部による演奏、斉唱があり、式典に花を添えていただきました。記念講演会では、本理学部卒で日本製鉄株式会社フェローとして活躍されている河野佳織氏に「時代を切り拓く、モノづくり、イノベーションへの挑戦」と題してご講演いただき、在学生へのエールとなりました。奈良ホテルでの祝賀会では、ギターマンドリン部の演奏を聴きながら、百十周年をお祝いしました。今回はタツカ大学をはじめ海外の5つの大学から来賓



記念式典

## 創立百十周年記念事業を終えて

をお迎えし、本学との国際交流をさらに深める機会となりました。

皆さんが学内外で目にされたらゴマーク「JUMP TO NEXT」とキャッチフレーズ「こごせ ももせ」とごしへに」は学内公募で選ばれたものです。さらに、「川路聖謨のみた寧ろ」奈良女子大学が奉所だつたところ」及び「地図から読む近代の奈良と奈良女子大学のあゆみ」と題した冊子を発行しました。どちらも構内遺跡に関する貴重な資料を基に作成され、本学の歴史を新たな視点で辿ることが出来ます。春と秋の記念館一般公開では百十周年記念特別展示を行い、令和元年10月31日には直木賞作家、出久根達郎氏をお招きして川路聖謨についてご講演いただきました。

最後に、今回の記念事業に関して新たな寄宿舎整備のためのなでしこ基金「百十周年記念事業特定基金」を設置し、約5千万円のご寄付をいただきました。本記念事業に多くの皆さまのご協力とご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。



能楽部による舞

## Campus Topics

### ■令和元年度学生表彰

奈良女子大学では、課外活動や社会活動などで特に顕著な成果を挙げた学生の個人又は団体を年に一度表彰しています。令和元年度の表彰式が、令和2年2月3日に行われました。受賞者・団体は以下の通りです。（学年は令和元年度のものです）

#### 【個人表彰者】

氏名	所属	サークル等	表彰対象となった業績
加藤 理恵子	理学部数物科学科 2回生	剣道部	第13回全日本学生剣道オープン大会 女子式段以下の部 第3位
水口 加琳	文学部人文社会科学 3回生	硬式テニス部	第43回奈良学生テニス選手権大会 女子シングルス 優勝 女子ダブルス 優勝
藤田 悠理乃	生活環境学部心身健康学科 3回生	硬式テニス部	第43回奈良学生テニス選手権大会 女子ダブルス 優勝
大野 穂乃歌	生活環境学部生活文化学科 3回生	音楽部	第74回関西合唱コンクール(第72回全日本合唱コンクール関西支部大会) 学生指揮者賞

#### 【団体表彰者】

サークル等	表彰対象となった業績
硬式テニス部	第57回近畿地区国立大学体育大会 テニス競技(女子)の部 準優勝
バレーボール部	第57回近畿地区国立大学体育大会 女子バレーボール競技の部 第3位
ハンドボール部	第57回近畿地区国立大学体育大会 女子ハンドボールの部 準優勝
放送局 B-naRadio	第36回NHK全国大学放送コンテスト 音声CM部門 第1位
音楽部	第74回関西合唱コンクール(第72回全日本合唱コンクール関西支部大会) 大学職場一般部門 大学ユース合唱の部(少人数) 金賞



令和元年度学生表彰

### ■「記者活動証」授与式



学生記者と広報企画委員

令和2年2月13日に実施された「記者活動証」授与式で、広報誌ならじよ(奈良女 Today)の作成にご尽力頂いた学生記者の皆さんへ「記者活動証」を授与いたしました。

本学広報誌は、大学の広報誌には珍しく「取材」や「執筆」を現役学生(学生記者)が行っております。令和元年度は6名の学生が、学生の目線でありながら、しっかりとした文章で本学の魅力を伝えてくれました。また、学生記者の採用から5年目を迎えた今年度は、学生の意見をより反映できるように、企画段階から学生記者の皆さんに参加して頂きました。

学生記者は随時応募しておりますので、ご興味のある方は是非総務・企画課広報係までご連絡ください! (広報係:somu02@jimu.nara-wu.ac.jp)

### ■令和元年度卒業式並びに学位授与式



令和元年度卒業式

令和2年3月24日、新型コロナウイルス感染症の拡大が広まる中、来場者の制限、マスクの着用等の感染防止対策を講じた上で、卒業式並びに学位授与式を挙行了しました。保護者の方々にはご来場頂けず心苦しい限りでしたが、学生の皆さんは大切な人生の節目である式典を無事に迎える事ができました。

### ■なでしこ基金 緊急学生生活支援特定基金

新型コロナウイルス感染症により日々の生活に困っている学生の皆さんを支援するため、新たに「特定基金」を設立いたしました。賜りましたご寄附は食事提供やその他経済的支援を行うために使用されます。

ご協力の程よろしく願い申し上げます。



### ■なでしこ基金

皆様方によるなでしこ基金へのご理解のもと、平成31年4月1日より令和2年3月31日までの1年間に、21,751千円(古本募金533千円を含む)のご寄附をいただきました。心から、温かいご支援とご協力に感謝申し上げます。

お寄せいただきました寄附金は、次のとおり、なでしこ基金による様々な事業の貴重な資金として、有効に活用させていただきます。

#### 【平成31年度及び令和元年度支出状況】

	金額(千円)	実施内容
学生育英事業	2,239	学長賞20名 稲葉力三記念教育研究奨励賞2名 修学支援特定事業
国際交流事業	5,947	留学生奨学金、ホームステイ経費等
創立百十周年記念事業	1,977	創立百十周年記念行事関係
学生寮建設事業	3,883	建築、設備等
その他	169	女性史学賞
合計	14,215	



# あの頃の奈良女へタイムスリップ!!

## =本学自慢の名物教授 第4回 千田稔編=



### プロフィール

1942	奈良県三宅村(現 三宅町)に生まれる
1961	奈良県立奈良高校を卒業
1966	京都大学文学部卒業
1970	京都大学大学院文学研究科地理学専攻博士課程中退
1970	追手門学院大学文学部 講師となる
1974	追手門学院大学文学部 助教授となる
1976	奈良女子大学文学部 助教授となる
1989	奈良女子大学文学部 教授となる
1992	京都大学にて文学博士号を取得
1994	第7回 浜田青陵賞を受賞
1995	国際日本文化研究センター 教授となる (2008年退任・現在名誉教授)
2005	第20期日本学術会議連携会員となる
2005	奈良県立図書館 館長となる(現在に至る)
2008	帝塚山大学特別客員教授となる(2013年まで)
2009	立命館大学大学院客員教授となる(2010年まで)

### 受賞歴

1974	『埋れた港』(学生社、1974年)、『埋もれた港』小学館ライブラリー、2001年)
1990	『鬼神への鎮魂歌一謎の藤ノ木古墳と聖徳太子(古代を検証する)』(学習研究社、1990年)
1991	『うずまきは語る—迷宮への求心性—』(福武書店、1991年)
1991	『古代日本の歴史地理学的研究』(岩波書店、1991年)
1994	『天平の備 行基一異能僧をめぐる土地と人々』(中公新書、1994年)
1998	『王権の海』(角川選書、1998年)
1999	『高千穂幻想—「国家」を背負った風景—』(PHP新書、1999年)
2000	『邪馬台国と近代日本』(NHKブックス、2000年)
2001	『飛鳥一水の王朝—』(中公新書、2001年)
2003	『地名の巨人吉田東伍—大日本地名辞書の誕生—』(角川選書、2003年)
2004	『古代日本の王権空間』(吉川弘文館、2004年)
2005	『伊勢神宮—東アジアのアマテラス—』(中公新書、2005年)
2005	『地球儀の社会史—愛しくも、物憂げな球体』(ナカニシヤ出版、2005年)
2016	『カラー版 古代飛鳥を歩く』(中公新書、2016年)
2016	『聖徳太子と斑鳩三寺 人をおくる』(吉川弘文館、2016年)

### ◆ 枠を外せ、学びを伝えよ!

千田先生の専攻は、歴史的出来事がどこで起きたかに着目する、歴史地理学です。歴史地理学は、歴史学と地理学のどちらの領域にも縛られない自由な視点が求められます。千田先生ご自身も、枠にとらわれない姿勢を大切にしてくださいました。

千田先生は奈良女子大学で、地理学の講義を担当しておられました。そのスタンスは「教科書通り」ではなく、学生に強烈な刺激を与えていました。地理学という枠を飛び越え、「古事記」を題材にしたことがあったそうです。「古事記」に描かれた神話の内容とその場所が、どのように関わっているのか。歴史地理学的視点を含んだこの講義は、地理学を専攻する学生にとっては予想外のものだったでしょう。また、桜井市にある上之宮遺跡に関して、今までの歴史学で言われてきた内容が間違いだったのではないかと、発掘調査の結果をもって指摘したこともあったといいます。千田先生は「研究者が、毎日いかに格闘しているか、どんな生き方をしているか、これに直接触れられるのが大学。学生は、教科書を読むだけでは分からないことを講義から感じ取り、自分なりに考えて行動してほしい」と言われます。

また、千田先生は、「研究について一般の方に発信できる大学であれ」と強調されていたそうです。「総合大学として、今の奈良女が何を



研究しているのか。積極的にキャンパスを開放して、一般の方に知っていただける機会を設けられると、大学も活気づくのです。それこそ、『万葉集』や『古事記』について教える塾を、地の利を生かしたベンチャービジネスとして始めてみるのもおもしろいかもしれない。」

学部や専攻分野の枠を飛び越え、学際的な研究を社会に発信することが大学の意義であることを、温かく教えていただきました。

### ◆ 「大学で学ぶ」ことの再考を ~取材を終えて~

ただテキストを読んで理解するだけなら、図書館に行くだけで事足りるかもしれません。日々研究を重ねる先生方との対話、興味関心の違う学友との意見交換、そして専攻外分野からの知識収集。生きた人間と学問が集う、大学という場所に通わないとできないことがあるのだと痛感しました。



千田先生がご在職の頃に比べて、現在の奈良女子大学では、奈良女子大学の教養教育のカリキュラムが充実し、専攻や学部の壁を越えた専門科目の受講が可能となりました。まさに、与えられた枠にとらわれない学風が育まれてきているのです。社会発信や地域貢献も学

内でたくさん目にします。千田先生の強い思いは、奈良女子大学に魅力的でパワフルな環境になるべく、影響を与えたのだらうと思いました。

今回の取材を通して、時には居心地のよい大学を飛び出し、周辺地域と連携したり、一般の方にも自由に来学していただける機会を設けたり、社会と大学との間の繋がりを持つことに、興味を持ちました。一般の方に私たちの学問を見ていただく大学のあり方を「劇場型大学」と呼ぶそうです。学びの視野が広がりで、わくわくします。私も、学生生活の残りの時間に、まだ問い直しの余地がある気がしています。

竹内 明日香(たけうち あすか)  
文学部人文社会学科4回生  
出身校:宮城県仙台第二高等学校



編集・発行/奈良女子大学広報企画室 ~2020/03/31 小路田、星野、西村、佐伯、内田、高島  
2020/04/01~ 小路田、石井、吉田、佐伯、中田、西村

編集責任者/室長 小路田泰直 連絡先/奈良女子大学総務・企画課

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel 0742(20)3220 Fax 0742(20)3205 E-mail somu02@jimu.nara-wu.ac.jp

「ならじよToday」へのご意見・ご感想を是非お聞かせ下さい。より良い誌面作成のため皆様の叱咤激励をお待ちしています。(編集部)

・バックナンバーはHPをご覧ください。▶ <http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/today/index.html>